

2026.03 おばな ざわ 未来 クラブ 通信 Vol.2

01 I support those who want to try it. 「やってみたい」を応援しています

CREATIVE
OBANE
CLUB



尾花沢市では、令和6年度から部活動の任意加入制度を導入し、生徒の皆さんがやりたい活動を自由に選択できるようになりました。そこで、小中学生のアンケートをもとに新しい活動を地域企業の協力を得て取り組んでいます。

クリエイティブクラブは「もの作りの楽しさを知ってもらう」をコンセプトに身近なデザインやもの作りを体験できる場所を提供しています。1回目は「ポロシャツの製作」、2回目は「飲食店のメニュー作成」、そして今回は「オリジナルデザインのラグを作る」というテーマのもと、3日間の活動で1枚のラグを製作しました。

1日目はタフティングの流れや試し打ちをし、デザイン案を考えてもらいました。使う色やこのデザインは表現できるのかなど、たくさんのデザインが生まれていました。2日目にタフティング、3日目に仕上げとなります。

それぞれ3時間の限られた時間内でしたが「難しい」と言っていた子達も、コツを掴んでぐんぐん上達していました。バリカンとハサミを使用して最終仕上げをする際も、細部までしっかりこだわって調整していたので全員がとても良いラグを完成させていました！

How did you feel after the activity? 活動を終えてどうだった？

03



今回の活動で参加者アンケートをいただきました。タフティングについて SNS やテレビなどのメディアで知っている子が多く、そこで興味を持ったとの声が多数ありました。また、ものを作ることが好き、楽しそうだったからという声もあり、なかなかできないタフティング体験に興味津々の様子でした。

今回は大人も対象だったため、子供と大人の交流もあり、和気あいあいとした雰囲気の中で活動に励んでいました。実際に体験して「力加減が難しかった」「難しかったけど慣れたら面白かった」「自分のデザインが形になって嬉しかった」など、苦戦しながらもオリジナルのラグが完成したことへの達成感があり、もの作りの楽しさが体感された活動でした。

02 How do you make it? タフティングはどうやって製作していくの？



1. 枠に布をピンと張ってデザインを描く



2. 毛糸を打ち込む

3. 接着剤と裏地を貼り
しっかり乾かす

4. いらぬ布を切り表面をバリカンで整える



「タフティング」という言葉は、布に毛糸を打ち込んで模様を作る技法を指します。昔から主にラグやカーペットなどが、製作されてきました。「タフティングガン」という専用機械を用いて、枠に張った布に毛糸を打ち込んで製作していきます。タフティングガンは約 1.5kg と重量感がありますが、自由自在な表現が可能なことや、家庭用に使いやすくなったタフティングキットが登場したこともあり、近年新しいハンドメイド体験として人気になっています。

クリエイティブクラブの指導者は、加藤健介さん(イデラルラボ代表)と秋場遥奈さん(イデラルラボ)です。「尾花沢の子供達に自分のアイディアや新しい発想を形にする楽しさを知って欲しい」と協力してもらっています。尾花沢にも様々な企業があること、そして地元どんな会社があるのか興味を持ってもらえたら嬉しいです。

Creating an environment for enjoying music. 音楽を楽しめる環境を作りたい

04



音楽クラブは、市内音楽家の加藤皓平さん(押切在住)を中心にした音楽愛好家の皆さんが、部活動の地域移行を機に「誰もが音楽を楽しめる環境をつくりたい」と立ち上げた団体です。

毎週金曜日に活動しているので来れる時に、音楽に触れたい時にぜひ来てませんか？

2026.03

今年度3つのスポーツ教室を開催しました。
その中では、尾花沢出身で全国・世界で活躍する先輩達が尾花沢の子供達に協力したいと講師を引き受けてくれました。
尾花沢のスポーツをみんなで応援します。

OBANAZAWA MIRAI CLUB News Letter

vol.2

お知らせ

令和8年3月22日(日)元全日本代表パワフル加奈・大山加奈さんが、女性アスリートの健康問題とスポーツの両立について、講演会を開催します(実技指導あり)

発行元:おばなざわ未来クラブ事務局 担当:倉林・伊藤コーディネーター
(尾花沢市教育委員会 教育指導室内) tel: 0237-23-3330



サッカー教室



ハンドボール教室



陸上教室

FOOTBALL

HANDBALL

TRACK AND FIELD

株式会社モンティディオ山形の岡崎建哉さんを講師に、サッカー教室を開催しました。OFCは、選手の少なさもあって、練習相手は保護者の皆さん。今回の教室にも保護者も参加し、スパイクを履いて4周ジョグから一緒にスタート。パスやシュートの専門的な技術を指導していただきました。

2023シーズンで引退した岡崎さんは、実は学生時代に何度も「君はプロにはなれない」と言われたそうです。しかし「絶対プロになる」と強い思いを持ち、苦しい時も逃げずに立ち向かい、這い上がるために挑戦し続けたことが今に繋がっていると教えてくれました。その自身の経験から『**生き方は選べる**』もので、**どうせ無理と諦めず、自分がどんな人間になりたいかを探り、迷わず進んで欲しい、人生をワクワクして生きて欲しい**』とメッセージをもらいました。

豊田合成ブルーファルコン名古屋所属の藤勢流選手(尾中出身)、元アースフレンズBM所属の矢作元さん(福原中出身)を講師に、技術指導と講演をいただきました。

『**一流選手ほど、人として挨拶や礼儀を重んじ、常に謙虚。自分もそうでありたいと思う。監督には、"当たり前"の水準を高めることを言われている。食事、睡眠、日常の水準をいかに高め、維持するかを心掛けている**』と話す藤選手。また矢作さんからは『**目標を持ち、その目標に対し常に自分の到達点を確認するとともに、アプローチを間違っていないか確認することを大切にしてほしい**』とアドバイスを頂きました。

山形県出身者でプロの道に進めたのは3人。尾花沢出身の2人からの『**自分たちに続く選手を待っているよ**』という嬉しい言葉で教室を終えました。

尾花沢中学校グラウンドに大学生5人が種目に分かれて後輩達と一緒に練習しました。その後の交流会では、参加者の「大会で結果が出なかった時、苦しかった時どうしていますか?」という質問に対して、高橋亜珠選手(2024年関東インカレ2冠100mH・200m&MVP、2025年日本インカレ200m優勝)は『**仲間の存在はとても大きいです。本番は1人だけ練習は仲間と励まし競い合いながら、時にケガで満足な練習ができない中でも仲間の支えで頑張れた。普段からコミュニケーションをとる事を心掛けています。**』同じ質問に対して武田莉奈選手(女子200m障害で日本高校女子新記録を出し優勝)は『**自分が走り、結果を出すことが皆さんの気持ちへの恩返しだと思っているので、これまで自分を支えてくれた人や応援してくれた人への感謝の気持ちを大事にしています。**』と答えてくれました。

さて、小中高校生の皆さん、あなたは何を思い浮かべますか?

